

■ 1) 情報交換 4 点

▼「こどものまち」をやろうとしたきっかけ、動機

“ピンポン横丁”はこどもNPOのミッションである「子どもの参画」の実践の1つとして始まりました。ピンポンハウスで何がやりたいかを子どもたちが話し合う中で、始めはフリーマーケットをやりたいという声があがったのですが、スタッフがミニさくらやミニミュンヘンの事例を紹介したことからこどものまちをやろうという話に発展していきました。

▼準備から参画している子どもたちは、??人、(年齢層別に)

2006年度は、小学生3年～6年が11人 高校生3人

▼子どもたちを、どう集めるかへの工夫、悩み

2003年の開催当初より参加している子どもとその後参加した子どもがコアになり、年間を通して他の事業もやりながら1年の最終到達点としてピンポン横丁を開催しています。子どもたちをたくさん集めることではなく、子どもたちが自分たちのまちをどう作っていくかその経緯を大切にしており、コアの子どもたちが友達に声をかけ、仲間を増やしたり、開催が近づくとピラを配ったりしながらその年々で参加の形が変わっていくことがおもしろいです。

▼より主体的に参画してもらうための工夫、悩み

子どもたちがより主体的に参加するためには、いかに大人が余分なことをしないかだと考えています。子どもは自分がやりたいと思ったとき、すごい力を発揮します。大人は子どもに参画してもらうということではなく、どうしたら子どもの心に火をともしせるか、子どもが動き出したいと思えるきっかけを作ることができるかを考えています。もっぴらの悩みは子どもの心に火をつけることと大人に忍耐してもらうことかな、それから結果を数字にもとめないことです。